

## 個々の理解



▲事例提供者に1人1人  
質問する参加者

## 深めながら今後の方向性を！

…事例検討の目的…

水戸教育事務所では、適応指導教室等の関係者を対象に、年2回、茨城大学教育学部副学部長・同研究科教育高度化専攻の三輪壽二教授を講師に適応指導教室等連絡協議会を開催しています。

今回は、発達障害が疑われる児童生徒の対応について、グループ毎に事例検討を行いました。事例検討を進めるにあたって、三輪教授から2点話がありましたので紹介します。

学校等で事例検討を行う際の参考にしてください。



三輪教授

話を聞いてもらえてよかった。今後関わるヒントを得た。  
**明日もがんばろう！**

### 事例検討の目的

事例検討の目的は、事例になったクライアントへの理解を広げつつ深め、今、課題になっている点を押さえて、どのように処してよいのかを検討することです。たとえ答えが出なくても、発表した人が少しでも安心できたり、前向きに、なれるといいです。また、参加者の中には同じような課題を抱えている場合もありますから、その課題解決への参考になるとなおさらよいでしょう。

### 事例検討の進め方

今回の事例検討会では、発表者が事例について説明を行い、課題があればそれを提起し、発表及び発表資料に従って参加者から質問を行い、みんなで課題を検討するという流れになります。普通の会議と同じです。そのために、進行役を決めてください。

## 春夏冬話（あきない話）

### 「がんばって」と何気なく言っていないか…

ある冊子で、知っている先輩が書いた原稿が目につきました。そのタイトルは、『がんばりすぎないで』というものでした。要旨は以下のとおりです。

学校行事などのあいさつで、「がんばってください」というフレーズを耳にする。また、運動会や大会などで、大人も子供も「がんばれ、がんばれ」と応援する。しかし、この「がんばれ」という激励は、相手の状況を考えないで投げかけてしまうと、時にはつらい思いをさせてしまうこともあるようだ。

この原稿を見て、30年近く前に先輩の先生が、教科の懇親会か何かで話してくださったことを思い出しました。それは、

学生時代の親友と久しぶりに会って食事とお茶をした。親友は、ご両親の介護をされていて余裕のない毎日を送っていたが、久しぶりに楽しい時間を過ごすことができたと言ってくれた。

別れる直前に、私が、「がんばって」と何気なく言った時、親友は涙を浮かべて、「これ以上、どうがんばればいいのか」とこわばった表情で言い返してきた。

私は、その時とても驚いた記憶が残っている。今思い返してみると、精一杯がんばっている人に、「がんばれ」を言うことは、それまでの努力を否定することになると反省している。

という内容でした。

応援する意味で何気なく使ってきた「がんばって（がんばれ）」ですが、言う側が言われる側の状況や場面を十分に考えて使う必要があると、改めて再認識させられました。（by O・M）

